

2024年3月期

決算補足資料(連結IFRS)

小野薬品工業株式会社

目次

【2023年度(2024年3月期)連結決算 (IFRS)】

P. 1	連結業績の状況、主な製品の売上収益 売上収益の内訳、地域別の売上収益に関する情報
P. 2	2023年度 (2024年3月期) 連結決算業績 (IFRS)
P. 3	連結業績の状況 (予想)、主な製品の売上収益 (予想) 売上収益の内訳 (予想)
P. 4	2024年度 (2025年3月期) 連結業績予想 (IFRS)
P. 5	減価償却費及び償却費・設備投資額及び無形資産投資額 期末従業員数
P. 6	株式の状況
P. 7-9	I. 開発品 (がん領域) の主な進捗状況
P. 10	II. 開発品 (がん領域以外) の主な進捗状況
P. 11-12	主な開発品のプロフィール

(注) (単位：億円) は、億円未満の数値を四捨五入しています。

2023年度（2024年3月期）連結決算（IFRS）

連結業績の状況

（単位：億円）

	2022年度 実績	2023年度 実績	前期比
売上収益	4,472	5,027	12.4%
営業利益	1,420	1,599	12.7%
税引前利益	1,435	1,637	14.1%
当期利益 （親会社の所有者帰属）	1,127	1,280	13.5%

（注）当社および関係会社の事業は「医薬品事業」の単一セグメントであります。

主な製品の売上収益

2023年度実績

（単位：億円）

製品名	累 計 実 績				増減額	前期比		予想 金額
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		増減率		
オプジーボ点滴静注	378	373	399	306	1,455	31	2.2%	1,500
フォシーガ錠	175	184	216	187	761	196	34.7%	750
オレンシア皮下注	66	65	70	58	258	11	4.3%	255
グラクティブ錠	56	52	59	45	212	△13	△5.9%	210
ベレキシブル錠	26	24	29	22	102	17	19.7%	95
カイプロリス点滴静注用	22	24	25	20	91	4	5.1%	85
パーサビブ静注透析用	21	21	23	18	82	△2	△2.1%	80
オンジェンティス錠	16	15	18	15	63	13	26.8%	65
オノアクト点滴静注用	10	10	13	10	43	△2	△3.5%	45
ビラフトビカプセル	9	9	9	8	34	2	6.0%	40
オパールモン錠	10	9	10	7	36	△8	△17.3%	35
メクトビ錠	7	7	7	6	26	0	1.4%	30

（注）1. 仕切価格（出荷価格）ベースでの売上収益を開示しております。

2. 当連結会計年度の予想売上収益については、現在承認されている適応症のみを対象としています。

売上収益の内訳

（単位：億円）

	2022年度	2023年度
製品商品	2,950	3,170
ロイヤルティ・その他	1,521	1,857
合計	4,472	5,027

（注）「ロイヤルティ・その他」の中には、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社からの「オプジーボ点滴静注」に係るロイヤルティ収入が、前期には896億円、当期には979億円、メルク社からの「Keytruda®」に係るロイヤルティ収入が、前期には452億円、当期には530億円、それぞれ含まれております。

地域別の売上収益に関する情報

（単位：億円）

	2022年度	2023年度
日本	2,882	3,082
米州	1,428	1,589
欧州	46	219
アジア	116	136
合計	4,472	5,027

（注）売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

2023年度（2024年3月期）連結決算業績（IFRS）

①売上収益 5,027億円 前期比12.4%増（前期4,472億円）

- ・抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、競争環境が激化する一方、胃がん、食道がん、尿路上皮がんなどでの使用が拡大したことにより、前期比31億円（2.2%）増加の1,455億円となりました。
- ・糖尿病、慢性心不全および慢性腎臓病治療剤「フォシーガ錠」は、慢性腎臓病での使用が大幅に拡大したことにより、前期比196億円（34.7%）増加の761億円となりました。
- ・その他の主要新製品では、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は258億円（前期比4.3%増）、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は212億円（同5.9%減）、抗悪性腫瘍剤「ベレキシブル錠」は102億円（同19.7%増）、多発性骨髄腫治療剤「カイクロリス点滴静注用」は91億円（同5.1%増）、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」は82億円（同2.1%減）、パーキンソン病治療剤「オンジェンティス錠」は63億円（同26.8%増）となりました。
- ・ロイヤルティ・その他は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社、メルク社などからのロイヤルティ収入の増加に加え、アストラゼネカ社との特許関連訴訟の和解に伴う一時金収入170億円を計上したことなどにより、前期比336億円（22.1%）増加の1,857億円となりました。

②営業利益 1,599億円 前期比12.7%増（前期1,420億円）

- ・売上原価は、製品商品の売上が増加したことに加え、「ジョイクル関節注」や「パーサビブ静注透析用」等に係る販売権の減損損失を合わせて111億円計上したことなどにより、前期比171億円（15.5%）増加の1,271億円となりました。
- ・研究開発費は、研究に係る費用や臨床試験に係る開発費用が増加したことに加え、開発化合物に係る無形資産の減損損失を計上したことなどにより、前期比168億円（17.7%）増加の1,122億円となりました。
- ・販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、「フォシーガ錠」の売上拡大に伴うコ・プロモーション費用やIT・デジタル関連の情報基盤強化に伴う費用などが増加したことにより、前期比108億円（12.1%）増加の1,003億円となりました。
- ・その他の費用は、前期にダナファーマーがん研究所との特許関連訴訟の和解に伴う一時金を計上しており、その反動などで前期比67億円（60.8%）減少の43億円となりました。

③税引前当期利益 1,637億円 前期比14.1%増（前期1,435億円）

- ・金融収支等は、前期比22億円（142.1%）増加の38億円となりました。

④当期利益 1,280億円 前期比13.5%増（前期1,127億円） （親会社の所有者帰属）

- ・親会社の所有者に帰属する当期利益は、税引前当期利益の増加に伴い、前期比153億円（13.5%）増加の1,280億円となりました。

2024年度（2025年3月期）連結業績予想（IFRS）

連結業績の状況（予想）

（単位：億円）

	前期実績 (2022年度)	当期実績 (2023年度)	次期予想 (2024年度)	2023年度比
売上収益	4,472	5,027	4,500	△10.5%
営業利益	1,420	1,599	1,220	△23.7%
税引前利益	1,435	1,637	1,230	△24.9%
当期利益 (親会社の所有者帰属)	1,127	1,280	910	△28.9%

主な製品の売上収益（予想）

（単位：億円）

製品名	当期(2023年度)			次期(2024年度)		
	実績	前期比		予想	当期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
オブジーボ点滴静注	1,455	31	2.2%	1,250	△205	△14.1%
フォシーガ錠	761	196	34.7%	830	69	9.0%
オレンシア皮下注	258	11	4.3%	270	12	4.5%
グラクティブ錠	212	△13	△5.9%	185	△27	△12.7%
ベレキシブル錠	102	17	19.7%	100	△2	△2.1%
カiproリス点滴静注用	91	4	5.1%	95	4	3.9%
パーサビブ静注透析用	82	△2	△2.1%	85	3	3.3%
オンジェンティス錠	63	13	26.8%	75	12	18.8%

売上収益の内訳（予想）

（単位：億円）

	当期(2023年度)	次期(2024年度)
製品商品	3,170	3,040
ロイヤルティ・その他	1,857	1,460
合計	5,027	4,500

2024年度（2025年3月期）連結業績予想（IFRS）

①売上収益 4,500億円 当期比 527億円（10.5%）減

- ・製品商品の売上は、当期比130億円（4.1%）減少の3,040億円を見込んでいます。主要新製品のうち、「オプジーボ点滴静注」は販売数量は増加するものの薬価引下げの影響を大きく受け、当期比205億円（14.1%）減少の1,250億円を予想しています。一方、「フォシーガ錠」は慢性腎臓病領域での使用拡大を見込んでおり、当期比69億円（9.0%）増加の830億円を予想しています。ロイヤルティ・その他は、メルク社などからのロイヤルティ料率の低下に伴い大きく減少する見込みであることに加え、当期に計上したアストラゼネカ社との特許関連訴訟の和解に伴う一時金収入170億円の反動もあり、当期比397億円（21.4%）減少の1,460億円を見込んでいます。以上のことにより、売上収益は当期比527億円（10.5%）減少の4,500億円を予想しています。

②営業利益 1,220億円 当期比 379億円（23.7%）減

- ・売上原価は、当期に販売権の減損損失111億円を計上した反動もあり、当期比141億円（11.1%）減少の1,130億円を見込んでいます。
- ・研究開発費は、治験に係る費用が増加する一方で、当期に開発化合物に係る無形資産の減損損失を計上した反動もあり、当期比2億円（0.2%）減少の1,120億円を見込んでいます。
- ・販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、フォシーガ錠の売上拡大に伴うコ・プロモーション費用が増加するものの、経費の効率化を進めることにより、当期比3億円（0.3%）減少の1,000億円を見込んでいます。
- ・以上のことにより、営業利益は当期比379億円（23.7%）減少の1,220億円と予想しています。

③税引前当期利益 1,230億円 当期比 407億円（24.9%）減

- ・金融収支等は、当期比28億円（73.7%）減少の10億円の見込みです。

④当期利益 910億円 当期比 370億円（28.9%）減 (親会社の所有者帰属)

- ・親会社の所有者に帰属する当期利益は、当期比370億円（28.9%）減少の910億円と予想しています。

減価償却費及び償却費・設備投資額及び無形資産投資額

・減価償却費及び償却費

(単位：億円)

	2022年度	2023年度	2024年度 (予定)
有形固定資産	98	101	100
無形資産	77	81	79
合計	175	181	179
対売上比率	3.9%	3.6%	4.0%

・設備投資額（工事ベース）及び無形資産投資額

(単位：億円)

	2022年度	2023年度	2024年度 (予定)
有形固定資産	77	65	95
無形資産	137	113	29
合計	214	178	124

期末従業員数（連結ベース）

	2022年度 (2023年3月末)	2023年度 (2024年3月末)
期末従業員数(人)	3,761	3,853

株式の状況 (2024年3月31日現在)

株式数

1. 発行可能株式総数	_____	1,500,000,000 株
2. 発行済株式の総数	_____	498,692,800 株

株主数

_____ 75,990 名

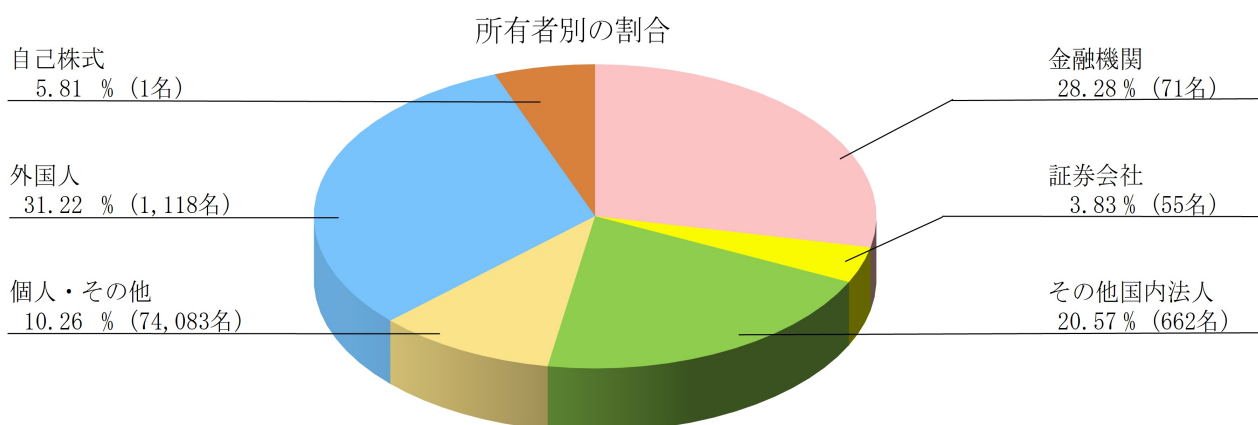
大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	63,878	13.59
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	19,488	4.14
明治安田生命保険相互会社	18,594	3.95
公益財団法人小野奨学会	16,428	3.49
株式会社鶴鳴荘	16,153	3.43
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティ 505234	9,759	2.07
株式会社三菱UFJ銀行	8,640	1.83
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	7,779	1.65
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	5,915	1.25
ジェーピー モルガン チェース バンク 385781	5,710	1.21

(注1) 当社は、自己株式28,980千株を保有しておりますが、上記大株主には記載しておりません。

(注2) 持株比率は、自己株式(28,980千株)を控除して計算しております。

株式の分布状況



(注) 上記所有者別の割合は、小数点第3位以下を切り捨てているため、各項目の比率を加算しても100%になっておりません。

I. 開発品（がん領域）の主な進捗状況

2024年4月22日現在

<承認取得開発品>

*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	自社*) / 導入
オブジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能 追加	上皮系皮膚悪性腫瘍 ^{※1}	注射	日本	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

2024年3月期第3四半期決算発表からの変更点

※1 : 「オブジーボ」について、国内で「上皮系皮膚悪性腫瘍」を効能・効果とした承認を取得しました。

<申請中開発品>

*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	自社*) / 導入
ビラフトビカプセル /エンコラフェニブ	効能 追加	甲状腺がん /BRAF阻害作用	カプセル	日本	導入 (ファイザー社)
メクトビ錠 /ビニメチニブ	効能 追加	甲状腺がん /MEK阻害作用	錠	日本	導入 (ファイザー社)

<臨床試験中開発品>

<オブジーボ> *) : 共同研究により創出された化合物を含む						
製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) / 導入
オブジーボ点滴静注 /ニボルマブ	効能 追加	肝細胞がん	注射	日韓	III	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能 追加	卵巣がん	注射	日韓台	III	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能 追加	膀胱がん	注射	日韓台	III	自社 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
<ヤーボイ> *) : 共同研究により創出された化合物を含む						
製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) / 導入
ヤーボイ点滴静注液* /イピリムマブ	効能 追加	胃がん	注射	日韓台	III	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能 追加	尿路上皮がん	注射	日韓台	III	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	効能 追加	肝細胞がん	注射	日韓	III	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

★ : 「オブジーボ」との併用試験

なお、がん領域の薬剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

<ONO-4538皮下注製剤> *) : 共同研究により創出された化合物を含む						
製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) / 導入
ONO-4538HSC	新有効成分	固形がん	注射	日本	I	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
<I-0関連> *) : 共同研究により創出された化合物を含む						
製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) / 導入
ONO-4578*	新有効成分	胃がん／プロスタグランジン受容体 (EP4) 拮抗作用	錠	日韓台	II	自社
ONO-4482* (BMS-986016) /Relatlimab	新有効成分	肝細胞がん ／抗LAG-3抗体	注射	日韓台	II	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	新有効成分	悪性黒色腫 ／同上	注射	日本	I / II	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-7427**2	新有効成分	固形がん／抗CCR8抗体	注射	日本	I / II	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
ONO-7475* /Tamnorzatinib	新有効成分	膵がん ／Ax1/Mer阻害作用	錠	日本	I	自社
ONO-4578*	新有効成分	結腸・直腸がん ／プロスタグランジン受容体 (EP4) 拮抗作用	錠	日本	I	自社
	新有効成分	膵がん／同上	錠	日本	I	自社
	新有効成分	非小細胞肺癌 ／同上	錠	日本	I	自社
ONO-7913* /マグロリマブ	新有効成分	膵がん／抗CD47抗体	注射	日本	I	導入 (ギリアド社)
	新有効成分	結腸・直腸がん／同上	注射	日本	I	導入 (ギリアド社)
ONO-7914*	新有効成分	固形がん／STINGアゴニスト	注射	日本	I	自社

★ : 「オプジーボ」との併用試験

2024年3月期第3四半期決算発表からの変更点

※2 : 抗CCR8抗体「ONO-7427」について、国内で「固形がん」を対象としたフェーズ I / II 試験を開始しました。

※PARP7阻害薬「ONO-7119」とオプジーボとの併用療法について、「固形がん」を対象とした第 I 相試験を国内で実施していましたが、戦略上の理由により開発を中止しました。

※TGF-β阻害薬「ONO-7122」とオプジーボとの併用療法について、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社主導の「固形がん」を対象とした国際共同フェーズ I 試験に日本から参加していましたが、戦略上の理由により開発を中止しました。

※抗ILT4抗体「ONO-7226」とオプジーボとの併用療法について、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社主導の「固形がん」を対象とした国際共同フェーズ I 試験に日本から参加していましたが、戦略上の理由により開発を中止しました。

なお、がん領域の薬剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

<その他> *) : 共同研究により創出された化合物を含む						
製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) /導入
ONO-4059 /チラブルチニブ塩酸塩	新有効成分	中枢神経系原発リンパ腫／BTK阻害作用	錠	米国	II	自社
ONO-7475 /Tamnorzatinib	新有効成分	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌 ／Ax1/Mer阻害作用	錠	日本	I	自社
ONO-4578	新有効成分	ホルモン受容体陽性HER2陰性乳がん／プロスタグランジン受容体(EP4)拮抗作用	錠	日本	I	自社
ONO-4685	新有効成分	T細胞リンパ腫 ／PD-1×CD3二重特異性抗体	注射	日米	I	自社
ONO-7018	新有効成分	非ホジキンリンパ腫、慢性リンパ性白血病 ／MALT1阻害作用	錠	米国	I	導入 (コーディア社)
ONO-8250	新有効成分	HER2陽性固形がん ／iPS細胞由来HER2 CAR-T細胞療法	注射	米国	I	自社 (フェイト社と共同開発)

2024年3月期第3四半期決算発表からの変更点

※抗CD47抗体「ONO-7913」について、ギリアド社主導の「急性骨髄性白血病」を対象とした国際共同試験に韓国及び台湾から参加していましたが、独立データモニタリング委員会による解析に基づき、無益性中止となりました。

なお、がん領域の薬剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

II. 開発品（がん領域以外）の主な進捗状況

2024年4月22日現在

<臨床試験中開発品>

*) : 共同研究により創出された化合物を含む

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	地域	ステージ	自社*) / 導入
ONO-2017 /Cenobamate	新有効成分	てんかん強直間代発作 ／電位依存性ナトリウム電 流阻害/GABA _A イオンチャネ ル機能増強作用	錠	日本	III	導入 (エスケー社)
	新有効成分	てんかん部分発作 ／同上	錠	日本	III	導入 (エスケー社)
ベレキシブル錠 /チラブルチニブ塩酸 塩	効能 追加	天疱瘡／BTK阻害作用	錠	日本	III	自社
ONO-2910 ^{※3}	新有効成分	糖尿病性多発神経障害 ／シュワン細胞分化促進作 用	錠	日本	II	自社
	新有効成分	糖尿病性多発神経障害 ／同上	錠	米国	I	自社
	新有効成分	化学療法誘発末梢神経障 害／同上	錠	日本	II	自社
ONO-2808	新有効成分	多系統萎縮症 ／S1P5受容体作動作用	錠	日 ^{※4} 米	II	自社
ONO-4685	新有効成分	自己免疫疾患 ／PD-1×CD3二重特異性抗 体	注射	日欧	I	自社
ONO-2020	新有効成分	神経変性疾患／エピジェネ ティクス制御作用	錠	米国	I	自社
ONO-1110	新有効成分	疼痛／内因性カンナビノイ ド制御作用	経口	日本	I	自社

2024年3月期第3四半期決算発表からの変更点

※3 : シュワン細胞分化促進薬「ONO-2910」について、米国で健康成人を対象としたフェーズ I 試験を開始しました。

※4 : S1P5受容体作動薬「ONO-2808」について、「多系統萎縮症」を対象とした国際共同フェーズ II 試験を日本で開始しました。

主な開発品のプロフィール

オプジーボ点滴静注 (ONO-4538/BMS-936558) / ニボルマブ 注射剤

オプジーボはヒト型抗ヒトPD-1モノクローナル抗体で、がんなどを対象として開発を進めています。PD-1は、リンパ球の表面にある受容体の一種で、生体において活性化したリンパ球を沈静化させるシステム（負のシグナル）に関与しています。がん細胞は、このシステムを利用して免疫反応から逃れているという研究成績が報告されています。オプジーボは、リンパ球を沈静化させるPD-1の働きを抑制することで、がん細胞やウイルスを異物と認識してこれを排除する免疫反応を増進するものと期待しています。

なお、日本、韓国、台湾は、小野薬品とブリストル・マイヤーズ スクイブ社が共同開発、それ以外の地域は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社が開発を進めています。

ヤーボイ点滴静注 (ONO-4480) / イピリムマブ 注射剤

ヤーボイはヒト型抗ヒトCTLA-4モノクローナル抗体で、様々ながんを対象に開発を進めています。

なお、日本、韓国、台湾は、小野薬品とブリストル・マイヤーズ スクイブ社が共同開発、それ以外の地域は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社が開発を進めています。

ONO-4482/BMS-986016/Relatlimab 注射剤

ONO-4482はヒト型抗ヒトLAG-3モノクローナル抗体で、悪性黒色腫および肝細胞がんを対象に開発を進めています。

なお、日本、韓国、台湾は、小野薬品とブリストル・マイヤーズ スクイブ社が共同開発、それ以外の地域は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社が開発を進めています。

ONO-4578 錠剤

ONO-4578はプロスタグランジン受容体 (EP4) 拮抗薬で、胃がん、結腸・直腸がん、膵がん、非小細胞肺癌およびホルモン受容体陽性HER2陰性乳がんを対象に開発を進めています。

ビラフトビカプセル (ONO-7702) / エンコラフェニブ カプセル

ビラフトビはBRAF阻害剤で、国内で悪性黒色腫を効能・効果として上市し、その後、国内および韓国においてBRAF遺伝子変異陽性の結腸・直腸がんを対象とした効能・効果も追加承認取得しました。さらに、未治療のBRAF遺伝子変異陽性の結腸・直腸がんを対象とした開発を進めています。その他、国内でBRAF遺伝子変異陽性の甲状腺がんを対象に開発を進めています。

メクトビ錠 (ONO-7703) / ビニメチニブ 錠剤

メクトビはMEK阻害剤で、国内で悪性黒色腫を効能・効果として上市し、その後、BRAF遺伝子変異陽性の結腸・直腸がんを対象とした効能・効果も追加承認取得しました。その他、国内でBRAF遺伝子変異陽性の甲状腺がんを対象に開発を進めています。

ベレキシブル錠 (ONO-4059) / チラブルチニブ塩酸塩 錠剤

ベレキシブルはBTK阻害剤で、国内で再発又は難治性の中枢神経系原発リンパ腫を効能・効果として上市し、その後、原発性マクログロブリン血症およびリンパ形質細胞リンパ腫を対象とした効能・効果も追加承認取得しました。韓国および台湾において再発又は難治性のB細胞性中枢神経系原発リンパ腫を効能・効果とした承認を取得しました。また、米国において中枢神経系原発リンパ腫を対象に開発を進めています。その他、天疱瘡を対象に国内で開発を進めています。

ONO-7475/Tamnorzatinib 錠剤

ONO-7475はAxl/Mer阻害薬で、EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌および膵がんを対象に国内で開発を進めています。

ONO-7913/マグロリマブ 注射剤

ONO-7913は抗CD47抗体で、膵がんおよび結腸・直腸がんを対象に国内で開発を進めています。

ONO-7914 注射剤

ONO-7914はSTINGアゴニストで、固形がんを対象に国内で開発を進めています。

ONO-4685 注射剤

ONO-4685はPD-1×CD3二重特異性抗体で、自己免疫疾患を対象に国内および欧州で開発を進めています。また、がん領域ではT細胞リンパ腫を対象に国内および米国で開発を進めています。

ONO-7018 錠剤

ONO-7018はMALT1阻害薬で、非ホジキンリンパ腫、慢性リンパ性白血病を対象に米国で開発を進めています。

ONO-7121 注射剤

ONO-7121は「オブジーボ」とONO-4482（抗LAG-3抗体／Relatlimab）との配合剤で、開発を進めています。

なお、日本、韓国、台湾は、小野薬品とブリストル・マイヤーズ スクイブ社が共同開発、それ以外の地域は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社が開発を進めています。

ONO-4538HSC 皮下注製剤

ONO-4538HSCは、ニボルマブとボルヒアルロニダーゼアルファとの配合剤で、固形がんを対象に国内で開発を進めています。

ONO-8250 注射剤

ONO-8250はiPS細胞由来HER2 CAR-T細胞療法で、HER2陽性固形がんを対象に米国で開発を進めています。

ONO-7427 注射剤

ONO-7427は抗CCR8抗体で固形がんを対象に国内で開発を進めています。

なお、日本、韓国、台湾は小野薬品とブリストルマイヤーズスクイブ社が共同開発、それ以外の地域は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社が開発を進めています。

ONO-2017／Cenobamate 錠剤

ONO-2017は電位依存性ナトリウム電流阻害/GABA_Aイオンチャネル機能増強薬で、てんかん強直間代発作およびてんかん部分発作を対象に国内で開発を進めています。

ONO-2808 錠剤

ONO-2808はS1P5受容体作動薬で、多系統萎縮症を対象に国内および米国で開発を進めています。

ONO-2910 錠剤

ONO-2910はシュワン細胞分化促進作用薬で、糖尿病性多発神経障害および化学療法誘発末梢神経障害を対象に国内および米国で開発を進めています。

ONO-2020 錠剤

ONO-2020はエピジェネティクス制御薬で、神経変性疾患を対象に米国で開発を進めています。

ONO-1110 経口

ONO-1110は内因性カンナビノイド制御薬で、疼痛を対象に国内で開発を進めています。